富士講の記憶を新たなまちづくりと観光の力に

もう一つの富士登山 の復活とまちの再生

2013年2月

富士山駅・富士信仰を活用した観光施策開発等調査報告書

慶應義塾大学中島直人研究会・一ノ瀬友博研究会・厳網林研究会

目次

目次　01
プロジェクトの趣旨･目的　02
プロジェクトの対象エリア　03

【中島直人研究会「富士信仰を活かした観光まちづくり」】

Ⅰ．全体構想

御師まちの成り立ち・・・・・・・・・・・・・・・・04-05.
御師まち観光の現状・・・・・・・・・・・・・・・・06-08.
御師まちの歴史文化資源・・・・・・・・・・・・・09-10.
御師まちのコミュニティ・・・・・・・・・・・・・・11.

コンセプト：山からまちへ、まちから山へ・・・・12.
構想１　人の流れを生み出す・・・・・・・・・・・13.
構想２　想いを広げる・・・・・・・・・・・・・・14.
構想を実現させる具体的な取り組み・・・・・・・15.
来年度の具体的な取り組み (提案) 一覧 ・・・・・16.

【参考】: 昨年度の提案・実証実験　17-18.

Ⅱ．具体的な取り組みの提案

- その１　御師まちに人を迎え入れるための設え
提案 1.　御旅所ひろば・・・・・・・・・・・・・19-24.
提案 2.　地域観光交流拠点「ちえのわ！」・・・・ 25-29.
提案 3.　お休み処・・・・・・・・・・・・・・・30-37.
提案 4.　のれんでひとつになるまち・・・・・・38.
提案 5.　ヤーナ川再生計画・・・・・・・・・・39-41.
提案 6.　御師の情報デザイン・・・・・・・・・42-45.

- その２　御師まちの魅力を積極的に発信する催し
提案７.　OPEN! おしまち・・・・・・・・・・・46-49.

- 来年度調査予定・・・・・・・・・・・・・・・・・50.

Ⅲ. 調査編

【一ノ瀬友博研究会「富士山・吉田口登山道を活かした観光まちづくり」】
・研究概要
・ガイド育成
・ツアーデザイン
・森林ライフ

【厳網林研究会「WebGIS を利用した地域魅力の定量評価」】
・取り組みの背景・内容・先行研究
・システムについて
・取り組みの結果
・今後の展望

調査メンバー

【中島直人研究会】

総合政策学部３年 石井 佑典
総合政策学部３年 長尾 英二郎
環境情報学部３年 浅香 健太
環境情報学部３年 豊田 哲也
環境情報学部３年 松永 仁
環境情報学部３年 渡邊 美香
総合政策学部２年 花上 愛祐美
総合政策学部２年 湯浅 資
総合政策学部１年 横尾 周

【一ノ瀬友博研究会】

環境情報学部４年 中塚 真麻
総合政策学部３年 川越 一磨
総合政策学部３年 佐藤 華純
環境情報学部３年 村上 郁江

【厳網林研究会】

環境情報学部４年 上田 智翔
環境情報学部４年 矢ヶ崎太洋

○表紙絵について
名:『富士山北口本宮冨士嶽神社境内全図』
作品年代:明治25年(1892年)
青山豊太郎(発行)
掲載意図:富士信仰が栄え、上吉田のまちが賑わっていた当時のように
現在のまちにも活気が戻ることを目指し、本報告書の表紙とする

慶應義塾大学 × 富士吉田市

～商工会議所プロジェクト～

富士吉田市の歴史・文化・自然・街並み・食といった地域の魅力を捜索、整理するとともに、地元関係者（市民団体・商店・自治体・企業等）と協議を進めながら、富士山駅、富士信仰を活用した新たな観光施策の開発及び普及に関する事業化を前提とした調査及び活性化方策、課題解決に向けた施策の提言、事業の立ち上り段階におけるフォローアップを通じた持続的な地域振興に繋げることを目的とする。

＝

吉田の魅力発掘

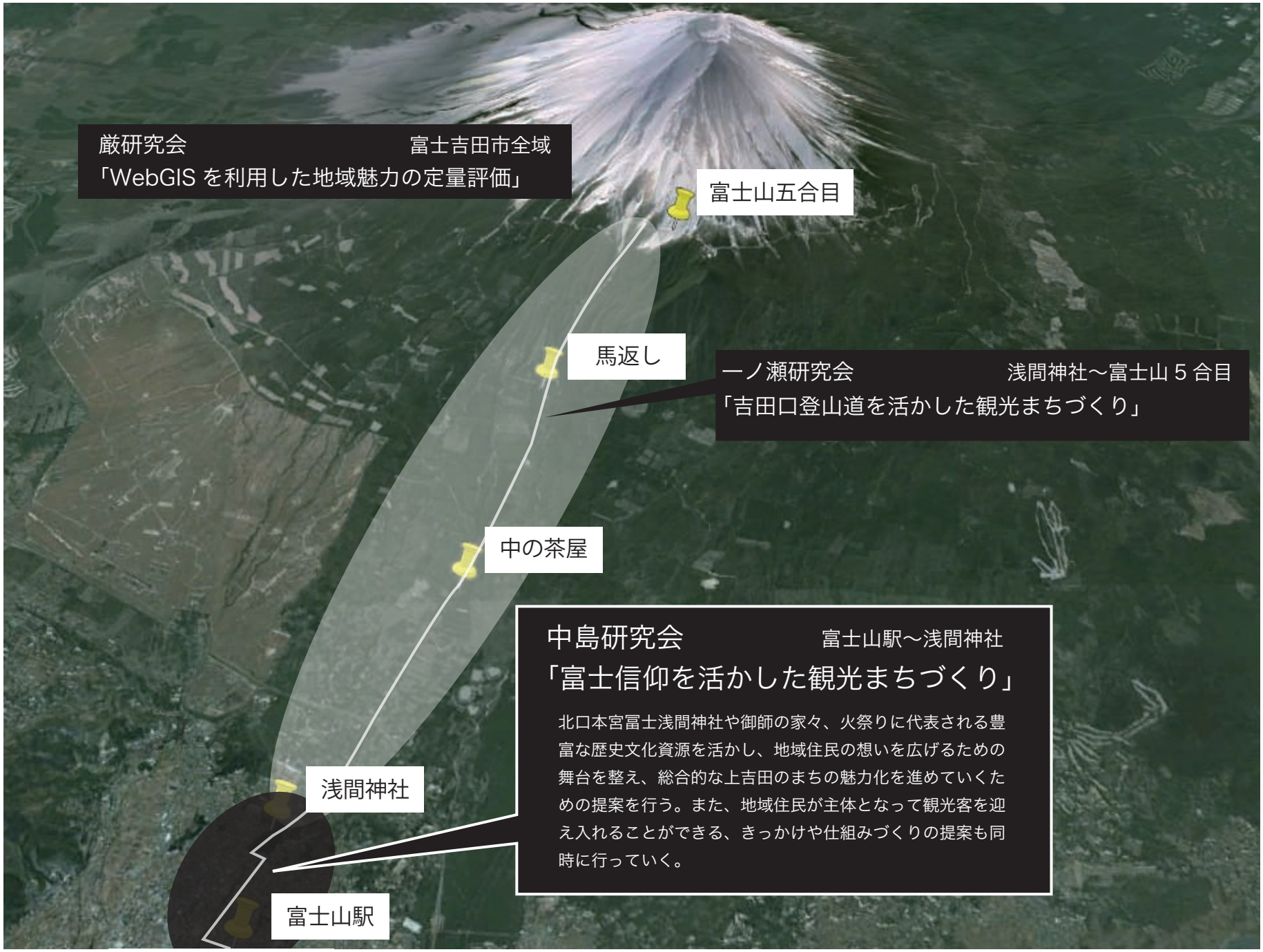
×

地域住民が主役

×

持続的な仕組み

プロジェクトの対象エリア



Ⅱ. 提案編
- 設え
  - コンパクト観光ゾーン
  - 御師まち満喫コース
- 催し

Ⅲ. 資料編
- 調査
- 事例
- 実験報告

Keio × Fujiyoshida
Naoto Nakajima Lab. SFC

Ⅰ. 全体構想

ここでは、御師まち観光の動向、歴史文化資源、コミュニティの状況を踏まえて、「山だけでなくまちも」活かした観光まちづくりの全体の構想を説明する。

「富士山信仰」の成立

■神仏の住まう山、富士山

富士山は、その美しさから日本一の山ととして愛されてきた。しかし一方で、噴火によって災害をもたらす恐ろしい山でもあった。ゆえに、古来より神の住む霊山として人々に山岳信仰の対象とされた。

富士山信仰は噴火を鎮めるために浅間大神（あさまのおおかみ）が祀ったのが始まりとされる。当初、麓から崇めるだけだった信仰は、平安時代の末期の仏教の影響によって、山に登り修行するという形に変容した。そして、山頂を仏の住む世界だとする考えが加わることにより、神と仏が一体となった富士山信仰が形成され、江戸の末期には富士講として栄えた。

■富士山信仰と富士吉田登山口

富士山を信仰し、登山しようとする人々は全国にわたり、そのなかでも吉田口登山道を目指してくるのは、江戸を中心とした関東周辺の人々であった。

「御師」のまち

「御師」とは、富士山の神霊と崇拝者の間にたち、祈りをあげ、お札を配り、登拝の際には自宅を宿泊所として提供し、富士信仰を広める役割を果たした人々である。室町末期には既に「御師」の存在が記録の上で確認されており、江戸時代の最盛期には、86 軒の「御師」が上吉田に居住していた。

上吉田は、元亀３年（1572）の水害などにより旧地・古吉田から現在地に移転した御師の集住する地区である。集落の入口には金鳥居、集落の背後には浅間神社が鎮座している。各御師家に入れ替わりはあったものの、町並みの基本的な骨格はその後も変化せず、現在もかつての「御師」最盛期の面影をみることができる。

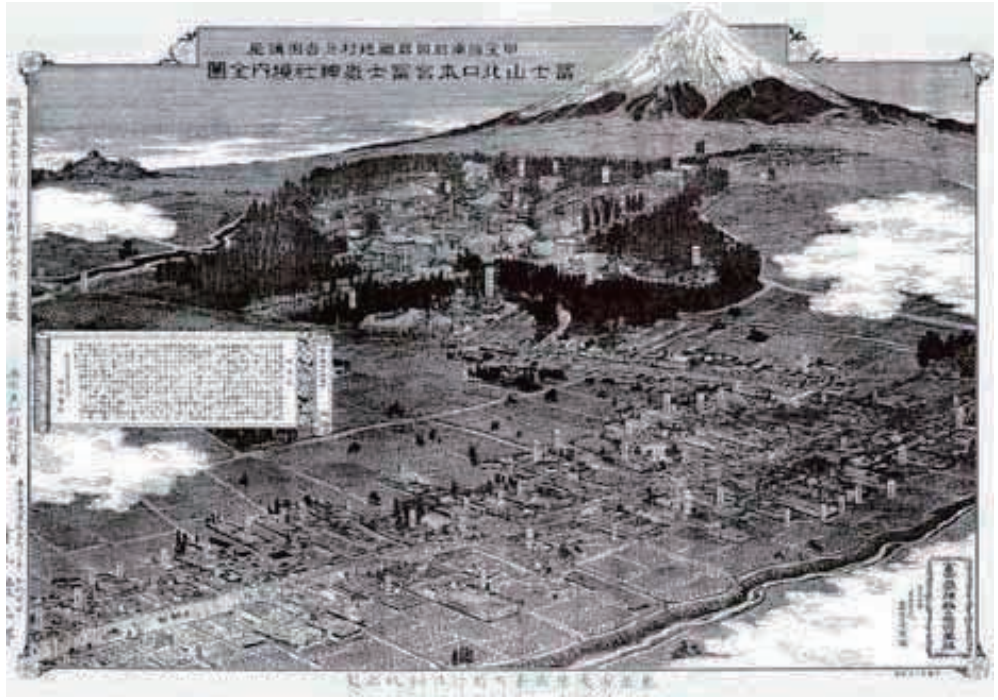
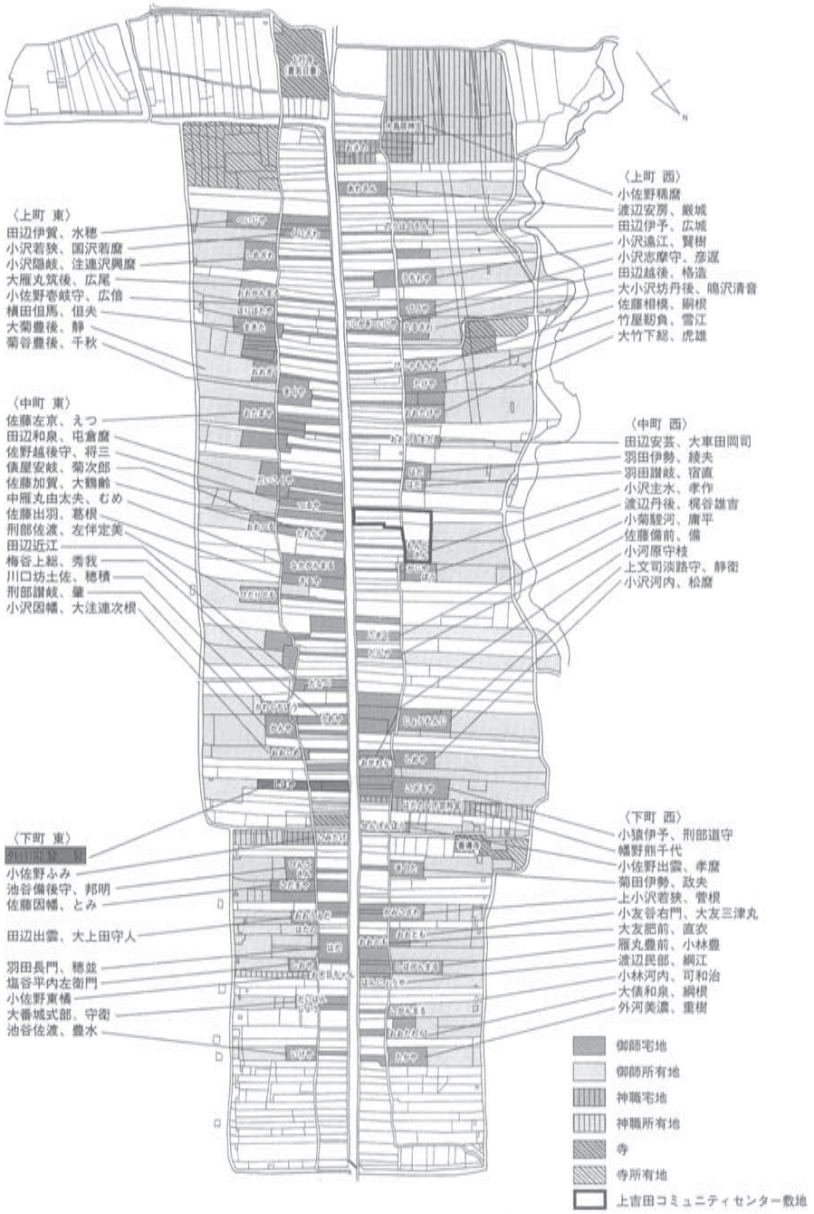


図１　上吉田の地割図

Ｈ２４　第１回「外川東で富士山学！」
平成２４年５月２６日（土）篠原　武



■山梨県の観光客動向

◆現状の分析

①富士山北麓地区における観光客数は、近年平均2千万人前後を維持しており、ほぼ横ばい傾向が続いている。

②富士東部地区における観光客の年齢層は40代が24 %と最も多く、次いで30代、20代、60歳以上と続く。これは他の地区や山梨県全体と比較しても 20 代～30 代が多いという傾向が見られる。

③山梨県を訪れる観光客は「自然」と「文化・歴史」に触れることを求めていることが分かる。

④山梨県を訪れる外国人観光客数は近年に増加傾向にあり過去5年間で1.5倍に増加した。

＋

◆世界文化遺産登録

富士山の世界文化遺産登録が実現すれば、国内外問わず、今後多くの観光客が富士山を訪れることが予想される。更に、文化遺産での登録であることから、富士山に関連する文化・歴史にも大きな注目が集まると考えられる。

＝

上記を背景に、歴史文化資源を活かした御師まちの魅力化は現状のニーズ、及び今後予想される観光客の動向を考慮すると、必ず求められることである。その際に、若年層や外国人への対応も今後更に必要となってくる。

①富士山北麓地区における観光客の推移

図１－２　観光客数

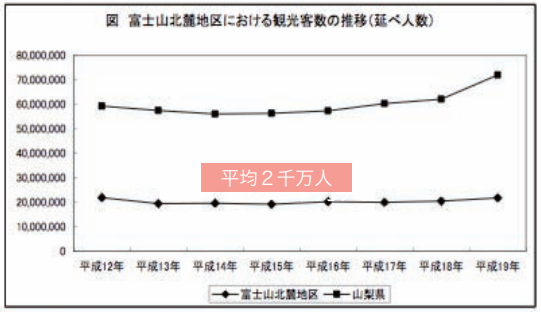


表 富士山北麓地区における観光客数の推移(延べ人数)　単位:人

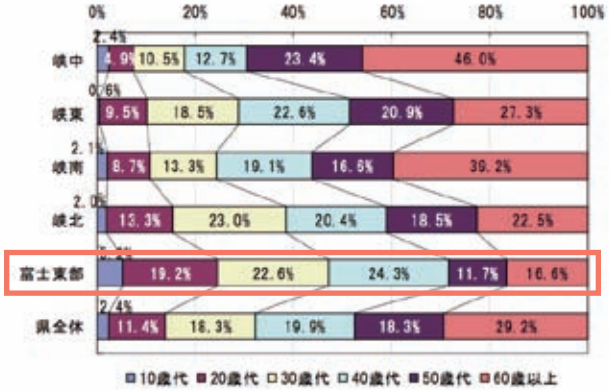
	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
富士山北麓	21,832,747	19,421,321	19,507,149	19,167,013	20,197,927	19,934,573	20,476,992	21,705,093
山梨県	59,352,465	57,498,756	56,073,850	56,353,085	57,316,283	60,304,229	62,102,172	72,017,172

資料:山梨県観光客動態調査結果(山梨県観光部観光企画課)

富士山北麓地区：富士吉田市、西桂町、忍野村、山中湖町、富士河口湖町、鳴沢村

富士山富士五湖観光圏整備計画書H232.9より引用

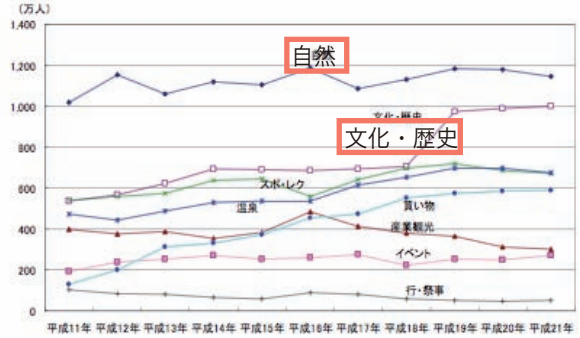
②観光客の年齢層



富士東部：富士吉田市、旧河口湖町、旧勝山村 旧上九一色村、旧足和田村、鳴沢村 忍野村、山中湖村、大月市、旧上野原町、小菅村、丹波山村 都留市、旧秋山村、道志村、西桂町

平成21年度山梨県観光客動態調査結果より引用

③目的別観光客実人数の推移



平成21年度山梨県観光客動態調査結

④外国人観光客の推移

平成17・18・19・20・21年度山梨県観光客動態調査結果概

■上吉田地区（御師まち）の観光客動向

●世界遺産インフォメーションセンター（金鳥居茶屋）利用状況

インフォメーションセンターの利用客は、窓口利用者とお休み所利用者を合わせた計算で見ると年間述べ 6000 人程度となっている。
富士山北麓地区における観光客数が、近年平均 2 千万人　前後だということを踏まえると、利用者はごく一部に限られていると言ってよい。

※世界遺産インフォメーションセンター（金鳥居茶屋）
ー富士山の世界遺産登録を目指し、富士山や富士吉田市の文化や歴史を伝えるため、2011 年 6 月に設置された施設。門的な知識を持った「富士山世界遺産ガイドマイスター」が常駐している。

●おし街さんぽ実施状況

おし街さんぽの実施件数も、年 70 件程度に留まっており、非常に少ない。

※おし街さんぽ
上吉田地区を案内してくれるガイドツアー。インフォメーションセンターで予約できる。

→ 富士山北麓地区の観光客は少なくないが、
上吉田地区の観光へと繋がっていない。こうした観光客を、
いかに上吉田（御師まち）を歩かせることが出来るかが課題となる。

●世界遺産インフォメーションセンター（金鳥居茶屋）利用状況

平成23年度		
月	窓口利用者数	お休み処利用者数
4月	223	179
5月	209	224
6月	326	211
7月	237	303
8月	674	502
9月	240	238
10月	277	266
11月	294	302
12月	261	147
1月	127	149
2月	159	150
3月	166	209
合計	3,193	2,880

平成24年度	
月	窓口利用者数
4月	202
5月	150
6月	263
7月	251
8月	906
9月	244
10月	567
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	
合計	2,583

●おし街さんぽ実施状況

平成23年度		
月	実施件数	利用者数
4月	5	134
5月	7	57
6月	4	44
7月	6	34
8月	7	49
9月	4	67
10月	7	90
11月	8	169
12月	4	55
1月	1	2
2月	12	98
3月	5	28
合計	70	827

平成24年度			
月	実施件数	利用者数	備考
4月	2	146	無料
5月	2	4	1件取材(無料)
6月	7	69	4件市依頼(無料)
7月	4	76	2件市依頼(無料)
8月	13	149	2件市依頼(無料)
9月	3	21	2件(無料)
10月	6	995	2件(無料)
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			
合計	37	1,460	

■上吉田地区（御師まち）の観光動線

- 上吉田地区における人の流れ -

問題点

・ 単調な動線、歩行者ネットワークの不足
（まっすぐな富士みちを歩くしかない）

・ 乏しい観光資源
（富士みちを歩いていても寄る場所が少ない）

北口本宮冨士浅間神社

旧外川家住宅

富士みち (金鳥居方向)

富士みち (浅間神社方向)

インフォメーションセンター

富士山駅

御師まちの歴史文化資源 ①

富士山へ向かう信仰の道

◆北口本宮冨士浅間神社

浅間神社は、富士信仰に基づいて富士山を神格化し、浅間大神を祀る神社であり、各地に存在する。北口本宮冨士浅間神社は、延暦 7（788）年に甲斐守紀豊庭が現在地に社殿を造営した。境内には諏訪神社も鎮座している。

＜国の重要文化財指定＞
1907 年 8 月 28 日　北口本宮冨士浅間神社東宮本殿
1953 年 3 月 31 日　北口本宮冨士浅間神社西宮本殿

北口本宮冨士浅間神社本殿

◆富士みち

富士みちとは大月から金鳥居を経て北口本宮冨士浅間神社に至る道。
富士登山者が多く利用したことから「富士みち」と呼ばれる。

◆金鳥居

金鳥居は国道 137 号線と 139 号線の交差点、上吉田の富士みちをまたいでたつ鳥居のことである。御師まちのシンボルとして存在している。

火祭りとその舞台

◆吉田の火祭り

富士吉田の火祭りは日本 3 大奇祭のひとつとされ、北口本宮冨士浅間神社と境内社である諏訪神社によって、毎年 8 月 26 日の「鎮火祭」と、8 月 27 日の「すすき祭り」の 2 日間にわたって行われる。

＜文化財指定＞
2000年12月25日　国の無形の民俗文化財として選択
2012年3月8日　国の重要無形民俗文化財に指定

◆御旅所（富士吉田コミュニティセンター）

御旅所とは火祭りの日に富士みちを通ってきた御神輿が巡幸の途中で宿泊する場所である。富士吉田コミュニティセンターのピロティが御旅所となっている。

◆火の見やぐら

昭和 30 年代初頭に建設された上吉田の火の見やぐらは足を大きく開いた独特な形をしている。これは火祭りのときにやぐらの下を御神輿が通れるようにしたためである。

御師の家々

◆旧外川家住宅

現存する御師の一つであり、母屋は１８世紀後半の明和５（１７６８）年に建造された。上吉田に現存する御師住宅のほとんどは１９世紀以降の建築とされているので、本住宅はきわめて貴重といえる。

2004年11月　市の有形文化財指定
2006年　建物の改修工事開始
2008年1月　県の文化財指定
2008年4月　工事完了
2011年 6月　国の重要文化財に指定

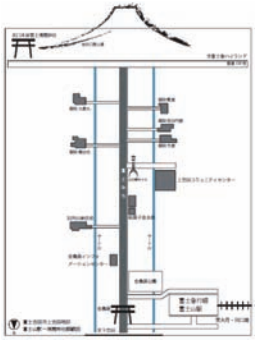
◆小佐野家住宅

小佐野家住宅は江戸末期の文久元（１８６１）年に建造された御師の住宅である。神殿部を持つ建物の形態や、参道から奥に入った屋敷の地割などに、その性格を良く表している。

1976年5月　国指定重要文化財指定

◆その他の御師の家と御師の文化

上吉田地区には文化財指定がなされた上記二つの住宅以外にも、10 軒以上の御師の家が残っており、その多くは生活の場として使われている。各家には御神殿があり、御師にまつわる信仰道具や衣装、記録などの貴重な文化遺産を保有している。



毘沙門屋の御神殿

◆タツミチ

タツミチとは富士みちから御師の家に垂直に伸びる道のことをさす。神聖な空間である御師の家へとつながる重要なアプローチである。入り口に門柱がある家が多い。

◆ ヤーナ川

ヤーナ川はタツミチを横切って流れる川である。聖域である御師の家に入るために、講者が身を清めた禊の川である。また、後には上吉田の大切な生活用水であった。

その他のなりわい

◆織物・染物文化

富士吉田を中心とした富士山北麓地区では、約 1000 年前から織物がさかんであった。上吉田地区には、今も山口染物工場に代表されるように、古き良き藍染め文化が継承されている。

御師まちのコミュニティ

上吉田地区、御師まちを中心に活動する地域住民による組織としては、以下のようなものが挙げられる。これらの組織間の連携や調整が課題となっている。

■自治会
全世帯が加入する。上吉田の御師まちには、上宿自治会・中宿自治会・下宿自治という３つの自治会がある。

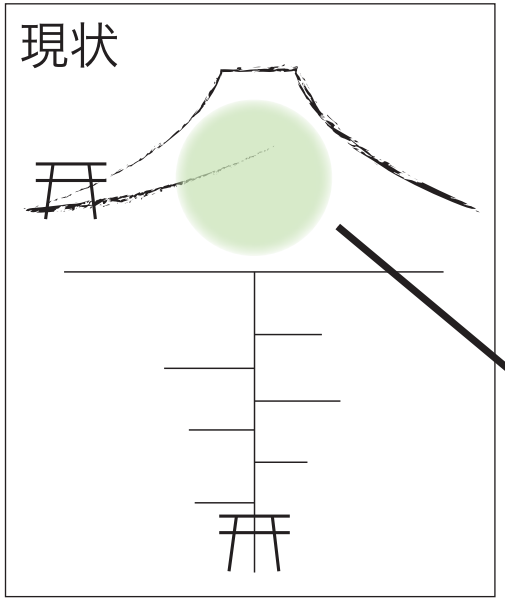
■御師団
御師の家を構成員とした組織。富士吉田の御師町としての文化や歴史の継承を担う団体。訪れる観光客に富士信仰を伝えるため、主に外川家住宅等オープン化された御師住宅で活動を行っている。

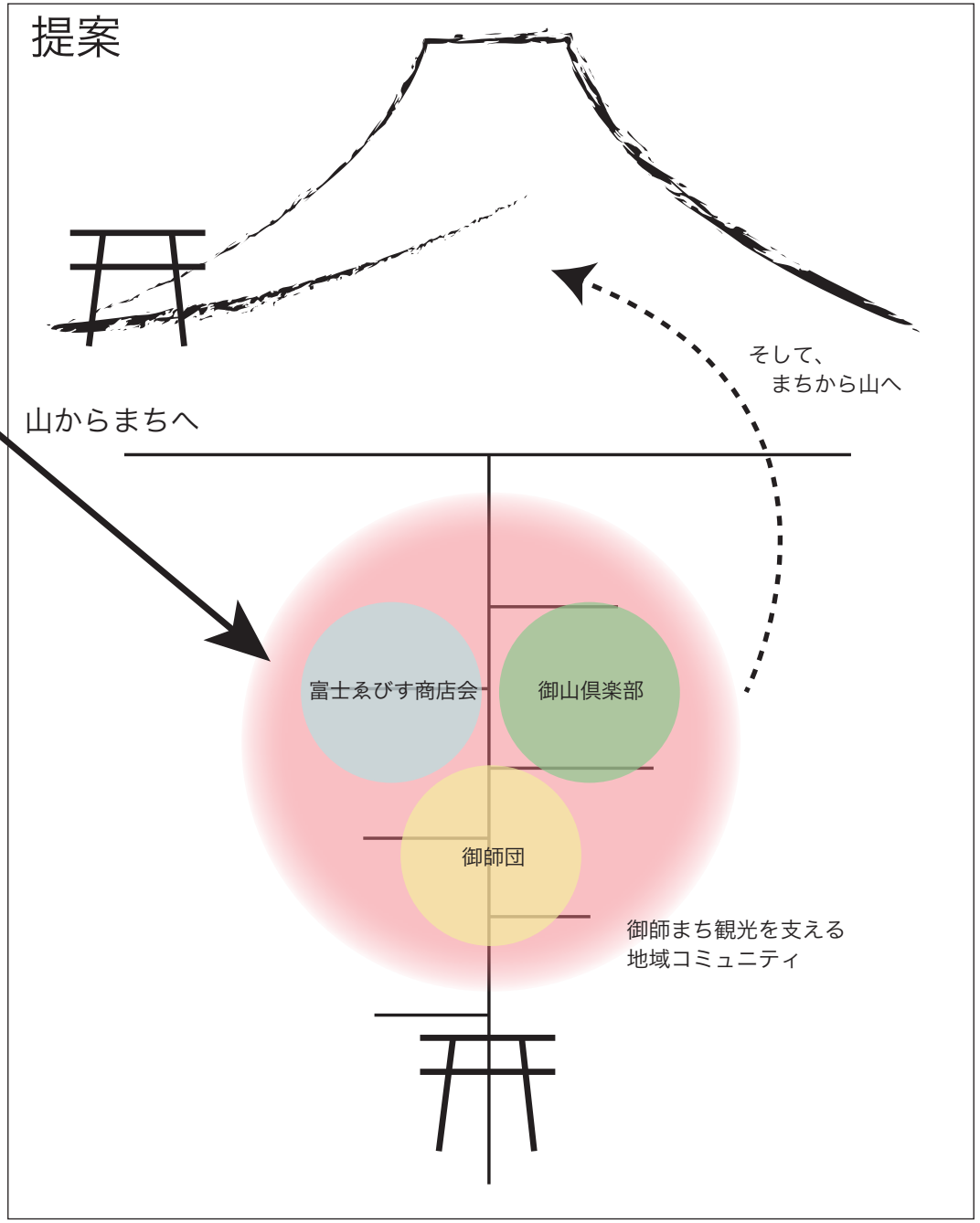
■御山倶楽部
平成１９年度に富士吉田市が国土交通省とともに実施した「観光まちづくりコンサルティング事業」の際に集まった地域住民たちで構成される団体。構成員それぞれの職業はさまざまだが、観光による地域活性化をめざした活動を展開している。

■富士ゑびす商店会
商店経営者が参加する商店会組織。年に数回、商店ならではのイベントを企画・実施し地域活性化に貢献している。加盟店は上吉田だけに限定されない。

山からまちへ、まちから山へ

今までの上吉田地域の観光は、あくまでも富士登山の出発点としての立ち位置、観光客の意識の中心は登山にあった。富士の雄大な自然を感じ、すがすがしい気持ちを持って、新たな自分に生まれ変わる―こんな体験を望んで、観光客はおとずれる。しかし、富士の魅力は自然だけではない。「信仰の山」としての富士の魅力がある。





その信仰を支えた「御師まち」に焦点を当て、文化を再発見する。その結果、本格的な登山だけでなく、何気ない富士見まで含めた、多様で豊かな観光まちづくりを実現させる。

→構想１ 人の流れを生み出す

御師まち観光を支える地域コミュニティ

「御師まち」に焦点をあてた観光には、地元コミュニティの主体的な参画が欠かせない。そもそも、御師まちは、富士講の時代に、御師を代表として地域住民が道者をもてなす心が大事にされたきたという伝統を持っている。それは現代を舞台にしても同じであり、地元コミュニティが御師まち観光を進める主体にならなければならない。

→構想２ 想いを広げる

構想１ 人の流れを生み出す

御師まちへ訪れる人は、どこから来て、何を見て、どこへ向かうのか。観光客の目から見て純粋に面白いところはどこで、足りていないところはどこだろうか。どこに何があれば、人の動線が生まれるだろうか。

御師まちにおいて、観光動線の選択肢を増やすような設えや催しを展開し、これまでとは異なる豊かな人の流れを生み出す。具体的には、人々を御師まちに惹きつけるために、集中的に歴史文化資源を磨き、回遊を可能とする旧外川家住宅を中心とする「コンパクト観光ゾーン」と、そこから浅間神社や富士山駅との間も含めた「御師まち満喫コース」の二つの行動エリア（人の流れ）を構想する。

■現状の問題点

- 単調な動線
- 数少ない観光資源
- 歩行者ネットワークの不足

↓

■提案における改善点

- 水平方向へ拡大した動線
- 程よく点在した観光資源
- 歩行者ネットワークの整備
- 観光の規模に適した動線づくり

→行動の選択肢の増加

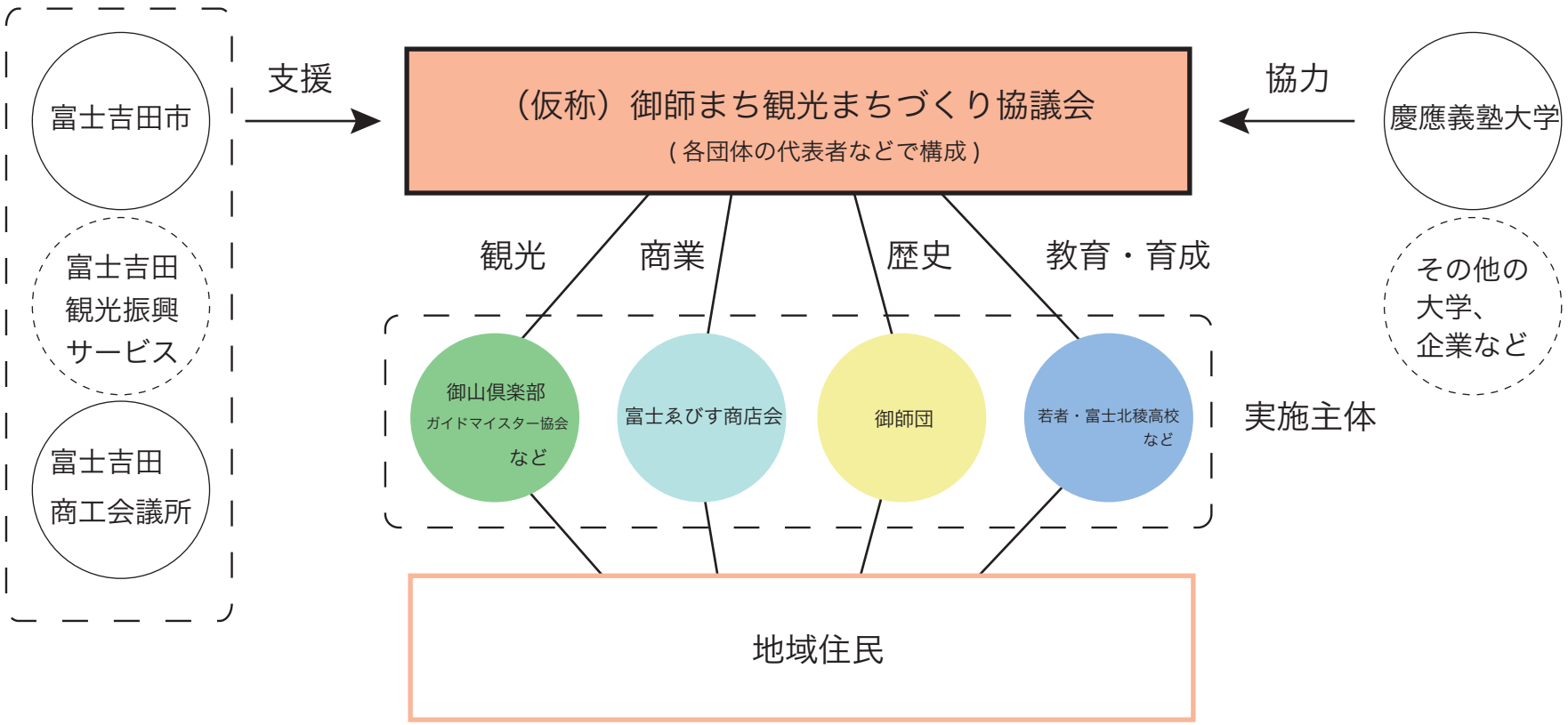
構想２ 想いを広げる　- 人をつないで、想いを広げる -

現在の上吉田には富士山信仰にまつわる様々な歴史文化資源がたくさん残されている。今後の観光まちづくりにおいて、その保全や活用をこれから担っていく人々、歴史や文化が豊かな御師まちを「わがまち」として誇りを持って魅力あるまちにしていこうと考える主体は誰なのだろうか。担い手候補は沢山おり、それぞれにすでに活動を行っているが、それぞれがばらばらに動き、まとまりを欠いたままだと、御師まちに眠る歴史文化資源は風化していってしまう。現在、個別にまちを魅力化していく取り組みが行われているが、これらの「思い」を総合してまちを運営していくことができればより大きな効果を期待できる。

提案

御師まち観光まちづくり協議会を中心とした連携のしくみ

そこで求められるのは、現在それぞれ個別に活動している組織の代表者などで構成する（仮称）の「御師まち観光まちづくり協議会」を中心として、まちづくりを進めていく構想である。各組織の連携を深め、相乗効果の発揮が実現されるとともに、行政や商工会議所等や大学からの協力や支援を受ける窓口の一元化にもつながる。この協議会が構成されても、実施主体はあくまで個別に活動している組織であるため、それぞれの組織が得意分野において力を発揮することができる。また、若者からも代表者を選出することにより、若い世代への活動の継承も期待される。



構想を実現させるための具体的な取り組み

「人の流れを生み出す」、「想いを広げる」という二つの構想を
実現させるために、７つの具体的な取り組みを提案する。

			想定される取り組み主体			
			御山倶楽部	えびす商店会	御師団	若者
設え	コンパクト観光ゾーン	■旧外川家住宅 × 観光拠点の整備 旧外川家住宅とその他を中心とした、観光拠点の整備を行う。				
		○地域観光交流拠点「ちえのわ！」	□			
		○御旅所ひろば	□			□
	御師まち満喫コース	■北口本宮冨士浅間神社 × 動線とビスタの魅力化 御師まち富士講文化の重要部分を担う北口本宮冨士浅間神社へ観光客を向かわせるよう、富士みちなどの動線とビスタの魅力化を行う。				
		○お休み処	□			□
		○のれんでひとつになるまち	□	□		
		○ヤーナ川再生計画	□			□
		○御師の情報デザイン			□	
催し	■御師の家々 × 集客増加のきっかけづくり	○OPEN! おしまち	□	□	□	□

来年度の具体的な取り組み（提案）の一覧

提案名	内容	実施主体	対象者	学生の役割
①御旅所ひろば	①コミュニティセンターの改修	富士吉田市役所	観光客	改修のコンセプト提案
	②夏の簡易展示	富士吉田市役所	観光客	展示会場作り、展示物収集
	③火の見やぐらの活用	富士吉田市役所	市民･(観光客)	内容の提案
	④改修ディスカッション	学生	市民	実施主体として
②ちえのわ	①旧外川家住宅周辺の改修計画	富士吉田市役所	観光客･市民	計画の提案
	→②ギャラリー	商工会議所	観光客･市民	補助
	→③お土産販売所	商工会議所	観光客	補助
	→④カフェよしだ	商工会議所	観光客･市民	補助
③お休み処	①お休み処の設置	富士吉田市役所	観光客･市民	設計案、対象地の提案
	②「東屋型お休み処」制作ワークショップ	学生	北稜高校の学生	実施主体として
④のれんでひとつになるまち	○のれんの掲揚	富士えびす商店会 地元商店街	観光客･(市民)	補助
⑤ヤーナ川	○ヤーナ川の修景	富士吉田市役所	観光客･(市民)	デザイン･対象地の提案
⑥御師の情報デザイン	○ウェブサイトの構築	商工会議所	観光客･(市民)	コンテンツの提案 ウェブ作成補助
⑦OPEN! おしまち	○企画の準備・実施・評価	商工会議所	観光客･市民	企画 実施運営補助

※各提案の実施主体は確定ではなく、今後調整していく。

【参考】昨年度の提案

【解決すべき問題群】

- ■富士みちの街路形態
- ■富士みちの景観・まち並み
- ■富士みち沿いの空間利用
- ■歴史文化資源への誘導のありかた
- ■歴史文化資源の空間的・時間的な発現
- ■富士信仰の基本的な性格
- ■受け継いでいくこころ

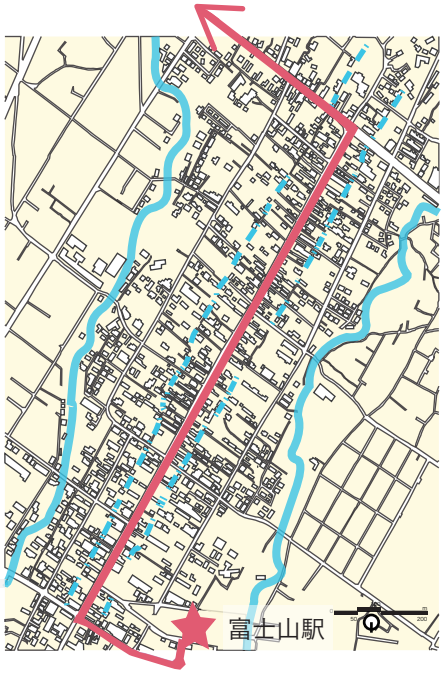
【想定した観光客の行動パターン】

富士山駅で降り、富士みちを歩きながら御師のまちを見て休憩しつつ浅間神社まで歩く

↓

設定したテーマ

歩きたいまち、出迎えるまち



【昨年度の提案一覧】

提案1

○ステップアップ・フラッグ

上吉田のまちにちなんだデザインのフラッグを富士道沿いに設置し、富士山を引き立たせる景観の向上や観光客の誘導を行う。
デザイン案として、「マネキ」をモチーフにしたものや、標高を表したもの、「上町・中町・下町」のゾーニングを表したものを検討した。

提案2

○のれんでひとつになるまち

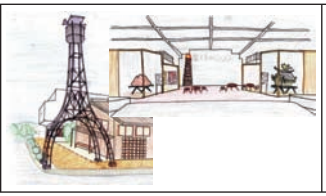
まちなみの一体感を創出し、特別な富士道を実現するため、共通デザインののれんを富士道沿いの商店に掲げる。
また、のれんは富士吉田の伝統的な織物・染物の文化を体現し、入りづらい雰囲気の商店への誘導を図った。

提案3

○お休み処づくり

富士道沿いの休憩所不足を背景に、楽しみながらまちを歩き回るためのお休み処を設置する。
「休憩＋お店」「休憩＋眺望」「休憩＋食事」「休憩＋水」というように、＋αの価値を提供することによって、観光のコンテンツとしての役割を期待した。

提案4



○御旅所ひろば

荘厳な雰囲気の吉田の火祭りの雰囲気を、普段から感じることができる場所をつくることを目的に、上吉田コミュニティセンターを御旅所ひろばとして整備する。
火の見やぐらを含め、御幸道から御旅所ひろばまでの修景整備を行い、建屋内には移動型の展示空間を設け、歴代の神輿などを展示する。

提案5

○オープンタツミチ

御師まちでしか味わえないタツミチという空間を開放し、ならではの歴史を体感してもらえるよう、各家オリジナルの解説板・ルール版を設置したり、提灯などを作成する。
御師まちにしかない観光のコンテンツを整備し、タツミチ巡りを富士道を中心としたまち歩きの手法として位置づけた。

提案6

○始発点としての富士山駅改良

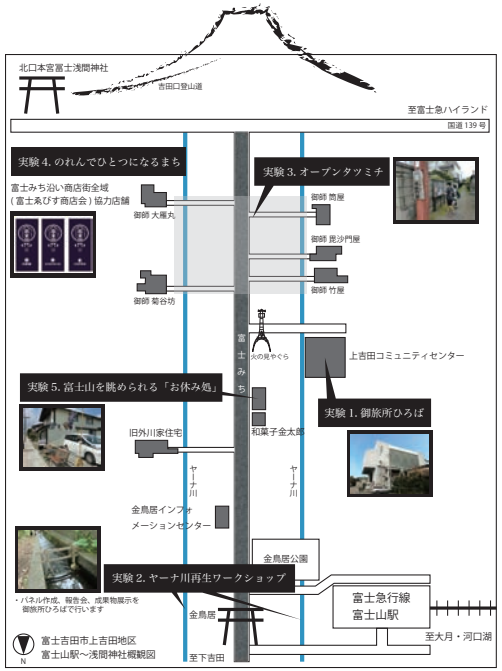
富士山駅を始点とした観光をより充実させるために、改札前にまち歩きマップの設置や観光案内所への直結改札の整備を提案。

提案7

○想いを活動へ

地域住民がどれだけ地域の事を知っているのか、という疑問を背景に、「ヤーナ川再生計画」「夏の夜に龍を流す」を提案。地域住民が地域に目を向けるきっかけを与え、今後の活動の主体性につなげる。

【参考】実証実験「御師まち観光まちづくり実験」



→詳細はⅢ. 資料編 - 実験報告を参照

昨年度の７つの提案より５つの提案を実証実験「御師まち観光まちづくり実験」として実施。

実施期間：2012年８月18日（土）～26日（日）

実施場所：富士吉田市上吉田地区

◆実験一覧

実験 1. 御旅所ひろば

実験 2. ヤーナ川再生ワークショップ

実験 3. オープンタツミチ

実験 4. のれんでひとつになるまち

実験 5. 富士山を眺められる「お休み処」

◆実験目的

【1. 御師まちの歴史・文化資源の魅力の検証】

【2. 地域住民の御師まちの歴史・文化に対する再認識の促進】

前者【1】はその観光資源としてのポテンシャルの高さに触れ、御師まちの資源が非常に豊かなことが裏付けられたと同時に、課題として、その魅せ方が不十分であることも判明した。

後者【2】は各種イベントやワークショップ等を開催したことによる、地域の方々や地元高校生との交流等を通して大きな成果を上げることができた。

今後は、検証結果を住民の目線などから考察し、より良い観光まちづくりの提案へ結びつけていきたい。

実験1		○御旅所ひろば 火祭りの日、御神輿が一晩を過ごす神聖な御旅所（おたびしょ）で以下の様な各種イベントを実験的に実施し、まちの中心の「ひろば」として活用の可能性や課題を検証した。 ◆御旅所フォトシアター（富士吉田写真展）　◆富士吉田いいとこガリバーマップ ◆きき水 - 富士吉田の「清水」を味わおう -　◆燈籠づくり体験 - 御師まちの夕べを演出する -
実験2		○ヤーナ川再生ワークショップ 古くから講者の禊や生活用水として利用されていた「間（あい）の川」としても呼ばれるヤーナ川の歴史的重要性を理解してもらうために、地域の方々による清掃活動と共に、地元富士北稜高校の生徒たちとワークショップを実施。さらに23日に御旅所ひろばで作成した燈籠でライトアップを行った。
実験3		○オープンタツミチ 富士講で訪れた人々の接待をする"御師（おし）"の家の方々にご協力をいただき、合計5軒（毘沙門屋・筒屋・竹屋・菊谷坊・大雁丸）の御師の家のタツミチを開放。それに伴い、富士講や御師の家の歴史についての立て看板を設置した。

実験4		○のれんでひとつになるまち 富士みち沿いの商店にのれんを掲げることにより、まちに一体感を与え、また営業中の合図を表すのれんによって観光客が店内に入りやすい雰囲気をつくることを目標として設置。富士あびす商店会さんの協力のもと実施した。
実験5		○富士山を眺められる「お休み処」 富士みちの休憩場所不足解消のため、和菓子屋「金太郎」さんの協力を得て、その店舗の横にお休み処を設置。富士の水をサーバーで提供した。
広報活動		○広報活動 本実験を告知・宣伝するために、回覧板・市広報・リーフレット・ポスター・Web等を活用し広報活動を実施。

Ⅰ. 全体構想

Ⅱ. 提案編
- 設え
  - コンパクト観光ゾーン
  - 御師まち満喫コース
- 催し

Ⅲ. 資料編
- 調査
- 事例
- 実験報告

Ⅱ. 提案　その1

御師まちに人を迎え入れるための設え

ここでは御師まちに必要な６つの空間・情報整備を提案する。

Keio × Fujiyoshida
Naoto Nakajima Lab. SFC

提案 1. 御旅所ひろば

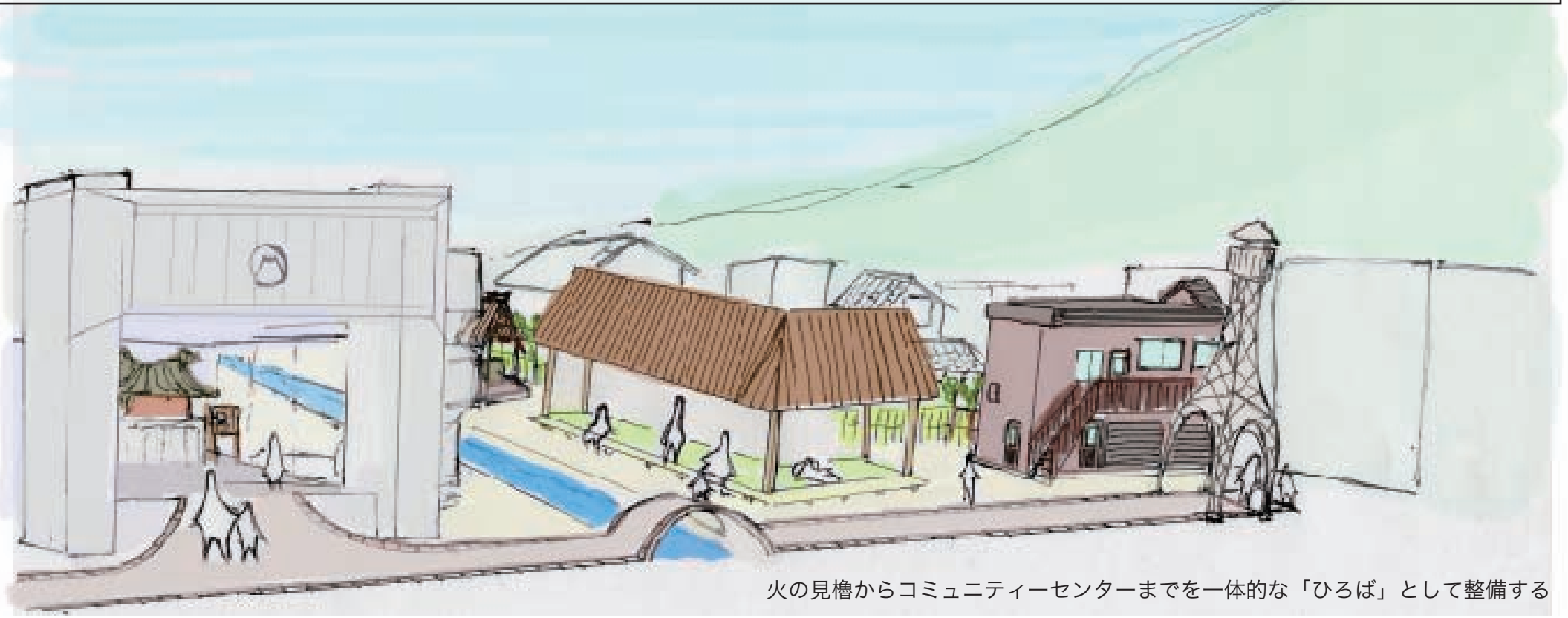
1. 提案の背景

●「火祭り」をはじめとする歴史文化情報の不足

観光の中心となる富士みち沿いには、富士吉田の歴史･文化、特に重要な歴史文化資源である「火祭り」についての十分な情報を得られる場所がない。世界遺産インフォメーションセンター、旧外川家住宅でも情報は得られるが、十分ではない。歴史民俗博物館には充実した展示があるが、御師まちからは遠すぎる。富士吉田の歴史文化の中心である御師まちにこそ、「火祭り」を中心とした歴史文化を伝える拠点があるべきである。

●あまり使われていないコミュニティセンター

上吉田コミュニティセンターは火祭り時に「御旅所」として使用されるが、その一階のピロティ部分は普段は殆ど使われていない。また、富士みちからコミュニティセンターをつなぐ御幸道の入り口には、火の見櫓という特徴的なランドマークがある。御師の家々にも近く、ヤーナ川に触れることができる。こうしたコミュニティセンターの場所性を勘案し、ここに「火祭り」をはじめとする歴史文化を伝える展示空間の設置を提案する。



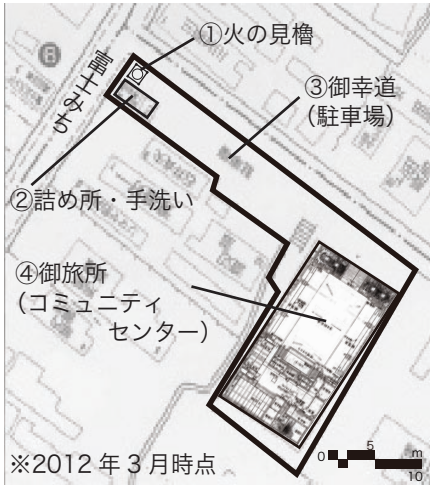
火の見櫓からコミュニティーセンターまでを一体的な「ひろば」として整備する

2. 「御旅所ひろば」計画　～富士吉田歴史民族博物館の御師まち出張所構想～

＜全体の構想＞

1 富士みちからコミュニティセンター１階までの一体化

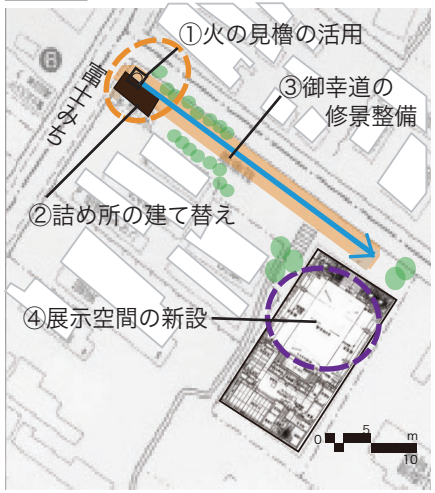
現況



①火の見櫓が印象的で、まちのランドマークとして際立っている。
②RC 造の詰所は暗い雰囲気がある。詰め所の裏にはお手洗いがあるが清潔感が感じられない。
③駐車場として利用されているが、普段はぽっかりと空いた空間になっている。
④一階の半屋外空間であるピロティは、コミュニティセンターの利用者も普段は単に二階以上にアクセスする通り道としてしか使っていない。

→これらの場所同士の連関もなく、全体的に低利用で暗い雰囲気

提案



「ひろば」として「一体化」

① 火の見やぐらの活用（2013年度計画）
② 詰所の建て替え（2012年度竣工）
③ 御幸道の修景整備（2013年度以降検討）
④ 展示空間の新設（2013年度以降計画）

2 歴史民俗博物館の御師まち出張所としての役割

富士みちをふらっと歩いたときに、まちの歴史・文化について学ぶことが出来る場にする。

既存
富士吉田市歴史民俗博物館
●展示内容
・富士山信仰
・日々の暮らしとまつり
・富士吉田の歩み
・地域をささえる産業
●ターゲット
・観光客（車・バス利用）

＋

新設
御師まち出張所
●展示内容
・まつりに関して（火祭り・胎内祭）
●ターゲット
・観光客（徒歩）
・外国人（世界遺産登録に向けて）

歴史・文化の中心地・御師まちにこそ歴史民俗資料館を！

3 地域参加型ワークショップによる合意形成

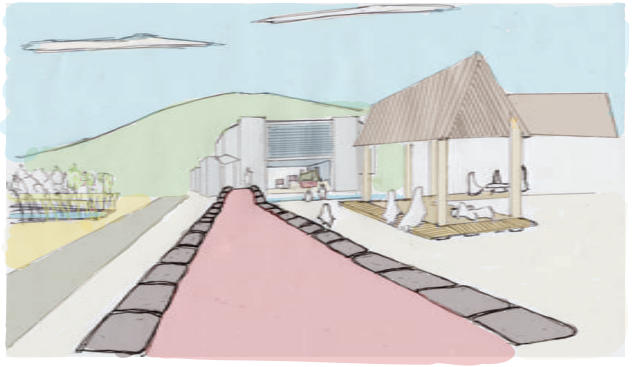
大規模な改修計画を地元の合意形成なくして進めることは不可能。

地域主体の WS を断続的に開催し、地域の理解と、様々なアクター間のコミュニケーションにより、より地域に根付いた、”富士吉田にふさわしい”御旅所ひろばにし、計画をより実現性の高く、そして質の高いものに導く。
（2013年度予定の WS の詳細は後述）

3. 各箇所の整備・活用の方針とイメージ

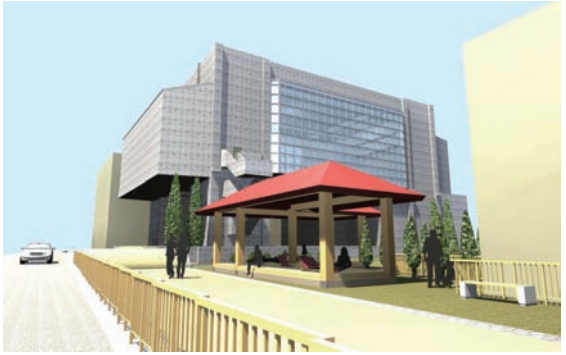
1. 御幸道の修景

富士みちから御旅所へまっすぐ導く通路。火祭りの際には御神輿が通る重要なみちであることを人々に意識させるような、歴史の趣のある街路として整備する。



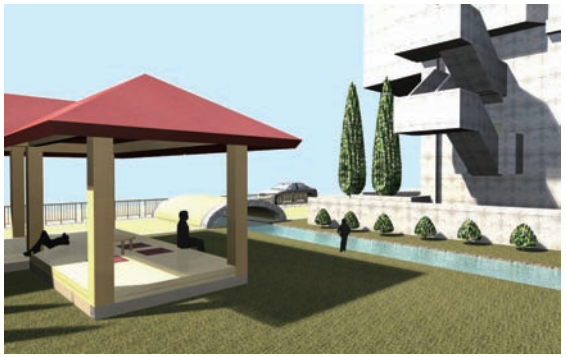
2. お休み処の設置

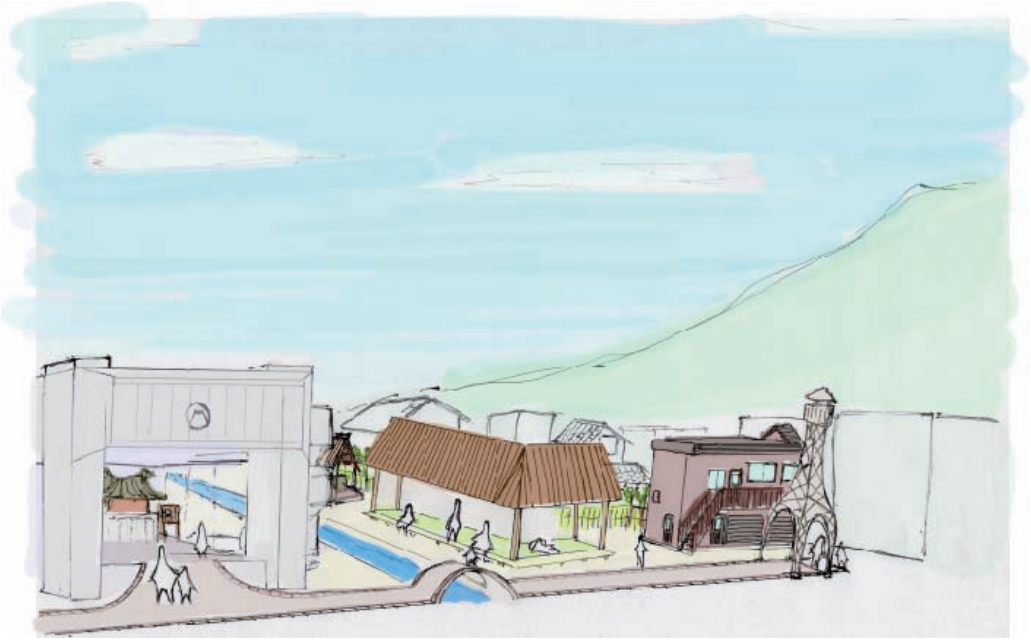
御旅所ひろばを気軽に立ち寄れる施設とするためにも、歩行者や、観光客、見学者の疲れをとるだけでなく、コミュニケーションの場としても機能するお休み処を設置する。



3. ヤーナ川の修景

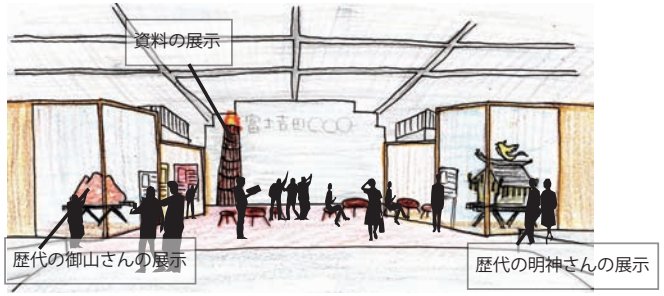
他のまちにはないものでありながら、隠されている歴史資源ヤーナ川を顕在化させ、御師まちを満喫したい観光客に、十二分に楽しんでもらうようにする。地域の人も歴史を再発見できる。





4. 展示空間の新設

吉田の地域活動の拠点である上吉田コミュニティセンターの一階ピロティ部分に、御師まちの歴史・文化の象徴である「火祭り」をメインに伝える展示装置を設置し（火祭りの際は移動可能で、御旅所としての機能は損なわない）、御師まち観光の拠点の一つとして育てていく。



4. 2013 年度の取り組みの提案

本格的な改修に向けて、2013 年度の夏に以下の３つを実験的に行う。

①「まつり展示」　②「復活！火の見櫓！」　③「改修ディスカッション」

① 「まつり展示」

夏期の一定期間中（提案 7.OPEN! おしまちと連動）
コミュニティセンターのピロティ部分に簡易的な
展示会場を設営する。

●ねらい

ー歴史民俗資料館の出張所としての役割を果たすために
どのようなコンテンツが集客に効果があるのか、検証を行う。
⇒将来の常設的な展示空間化に向けたコンテンツ整理。
⇒展示空間とコミュニティセンターの本来の機能との調整。

●展示コンテンツ

ー「火祭り」関連の神具・道具、説明パネル
ー御師まちの歴史・文化資源を説明するパネルや模型、地図

●展示の注意点

ーしっかりした管理体制を整えること（特に夜間）
ーあくまで仮設の簡易的なものであり、期間後に撤去できること
ーコミュニティセンターを傷つけないこと

→61 事例 3. 田原まつり会館参照

＜参考事例＞　仮設の簡易的展示方法

・コンテナ（TDW コンテナ展）

・メリット
フレキシブルな展示や飾り付け
が可能である。

・デメリット
管理がしづらい。
設置、撤去に時間がかかる。
電気をひかないと暗い。

http://www.tdwa.com/tdw/special/exhibition/container_ex.html

→61 事例 4.TDW 参照

・温室（陽だまりアルミ温室）

・メリット
管理がしやすい（外から見られる）
設置、撤去がすぐできる
電気をひかなくても明るい。

・デメリット
値段が高い（１坪程度で 20 万円）
展示装置としての事例がない。

http://www.hidamari-onsitu.com/HP/m-2-3-2012.7/catalog.html

② 「復活！火の見櫓！」

富士吉田における重要なイベント時に火の見櫓の鐘を鳴らす（開山祭、胎内祭、火祭り、流鏑馬祭り、富士登山競争、ふじざくら祭り、ちえのわイベント、etc）

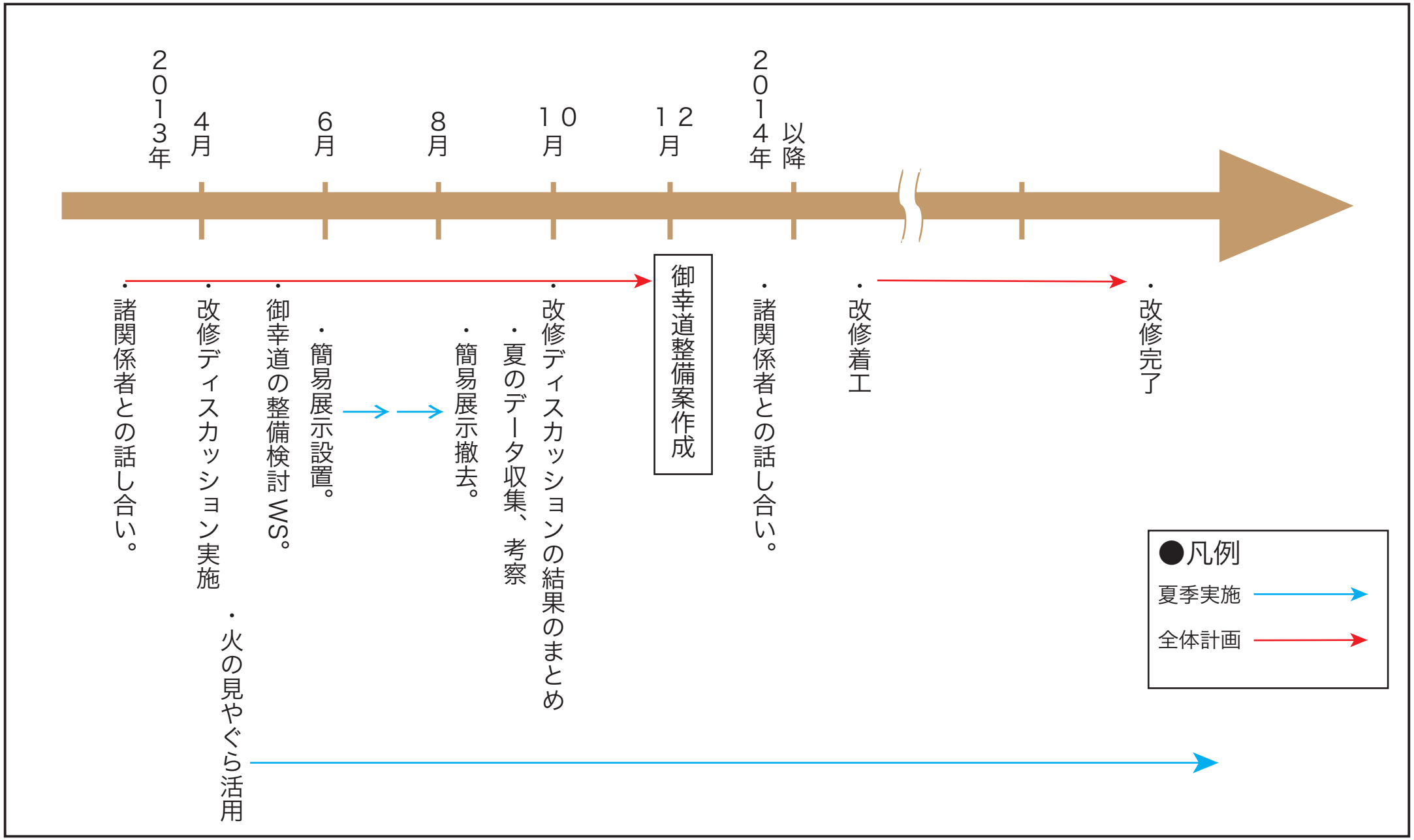
●なぜ火の見櫓を使うのか
—その歴史的価値･形態は、観光客にとっても住民にとってもまちのシンボルとして意識されうる。
●効果
—まちにおいて重要なイベントがあることを知らせることができる。歴史資源が、実際にまちで使われる生きた資源となる。
●活動主体（案）
—施設の保守管理は市役所に委託する。鐘を鳴らすのはイベントを企画した地域住民や、あるいは鐘を鳴らすこと自体をイベント化し、観光客にも開放する。

③「改修ディスカッション」

御旅所ひろばの将来像を地域の方々と学生とで一緒に考える場をつくる。実現可能な案をみなで考え、最終的な改修の姿を話し合う。

●ねらい
地域の方々が改修プロセスに主体的に関わることによって、地域に根付いた施設として育てていくことができる。自分たちの施設としての親しみを持ってもらう。
●話合いのプロセス
まず、大学側から 2012 年度の実験結果などから見えた問題点を発表し、課題を理解した上で改修の事例、コンセプトなど最低限の決めごとなどのたたき台を提供し、それを基に話し合いを進めていく。
●活動主体（案）
主催：慶応義塾大学、中島直人研究室
想定される参加者：地域住民、市役所、商工会議所、商店会、御山倶楽部、御師団、高校生、その他（火祭りに大きく関わっている世話人などの人々）

5. 想定されるタイムライン



提案 2. 地域観光交流拠点「ちえのわ！」

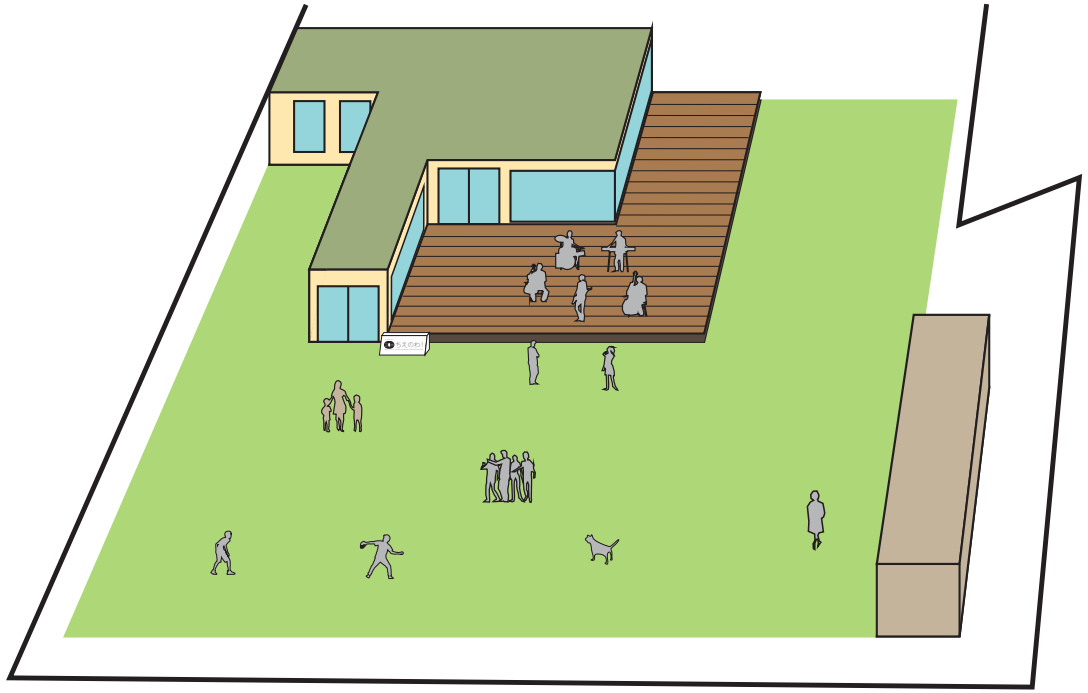
Chie-no-Wa!

ちえのわ！

Platform of Communication between Tourists and Residents

観光客と地域住民とが交流する新たなかたちの観光情報拠点

それ、いいね。
楽しそうじゃん。
みんなで、やってみようよ。



1. 問題意識　観光客と生活者の接点

住民にとって、観光客の増加が意味することとは？

富士山が世界文化遺産に登録されれば、自ずと観光客数が増加することが予想される。そのことに対して、地域住民の方々はどう感じているのか？という問題意識があった。

そこで、上吉田地区の一般住民の方々にヒアリングを行った。その結果、

・外部の人間が入ってくることに関しては特に抵抗はない

・むしろ、そこで生まれる新しいコミュニケーションに期待したい

という声があった。

人が集まる場所はどこ？

地域住民の方々は、どこに集っているのだろうか。また、そこで何か自分を表現しているだろうか。皆がひとつの場所に集い、表現し、感受する。日常の生活を、ほんの少しだけ豊かにする、そんな空間を提供したいという思いがあった。

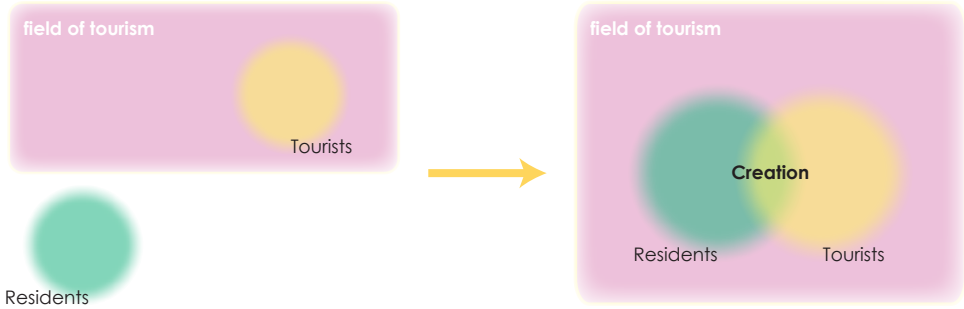
地域の最も良い所を紹介できるのは、住民では？

吉田に住む方々には、それぞれのお気に入りの富士山眺望スポットやうどん屋さんがある。長く住んでいるからこそ知っている、吉田のいいところ、これを観光客に還元できないだろうか。

2. 考え方

◇住民が関わる新たな観光の形の提案

従来の観光は、「観光客が観光地に赴き、観光地（観光施設）を巡る」という形が定番であった。住民は観光施策の対象から除外され、積極的な関与は求められなかった。しかし、住民が持っている地域情報は大きい。日常生活の中に蓄積している地域のすばらしい面を、観光客との交流の中で伝え、それが新たな観光創造の場になる。



観光と地域住民の乖離

観光と地域住民の交流と、
新たな価値の創造

◇もっと気軽に使えるひろばの提案

上吉田地区には、気兼ねなく使えるひろばがない。繁雑な手続きなしで、ライブや発表会、ワークショップ、日だまりの下の読書など、やりたいことができる場所がひろばである。そこに観光でやってきた人が加わって、新たなコミュニケーションが広がる。

→60 事例 2.tsumuji 参照

3. 目的

◆観光客と地域住民の交流の促進

◆御師まち観光の拠点の整備

◆地域住民による表現の場所の提供

4. 具体案

【名称とロゴマーク】

Chie-no-Wa!

ちえのわ！

Platform of Communication between Tourists and Residents

地域住民と観光客、様々な人の知恵が重なって、新たな輪となり広がってほしいとの思いから。

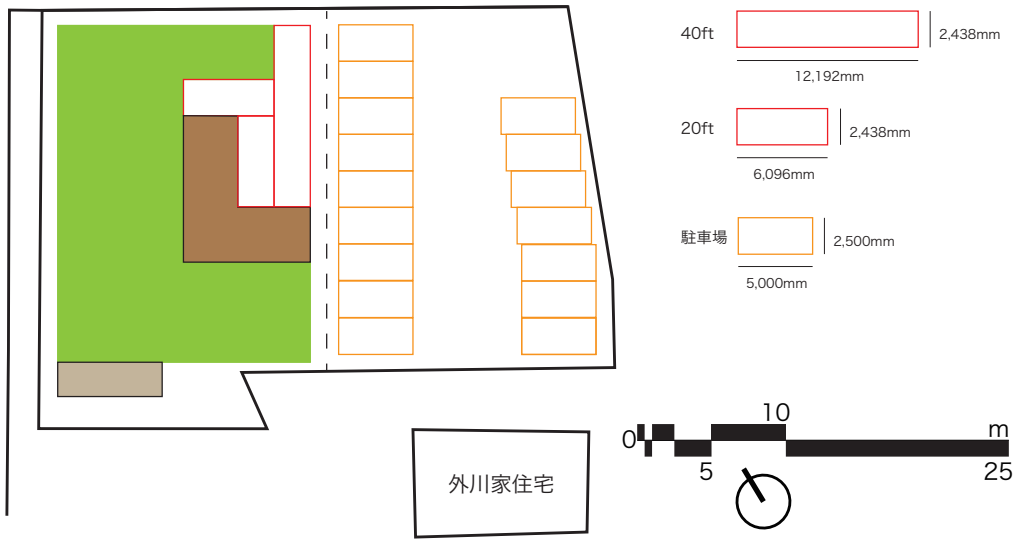
【実施方法】

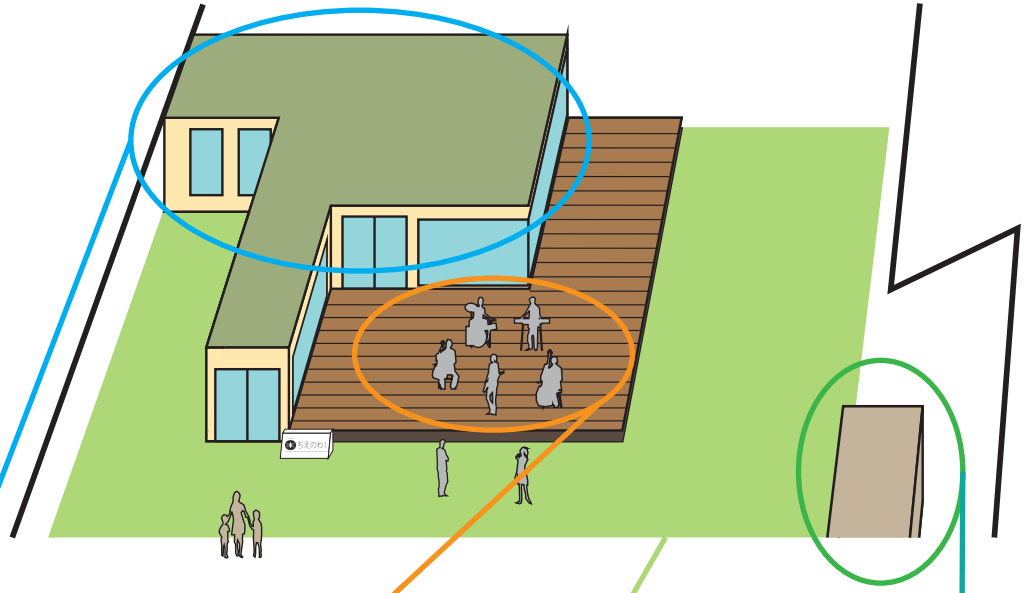
富士みち沿いの適当な場所で、期間を決めて、実験的に実施してみる。その結果を踏まえて、旧外川家周辺で富士吉田市が整備を計画している「町家」のコンテンツとして、「ちえのわ」の実現を検討していく。

【施設】

観光情報収集スペース　お土産販売
デッキステージ　シェフよしだ
カフェよしだ　芝生ひろば

5. 施設の詳細イメージ（※仮に旧外川家住宅の駐車場を敷地として設定した場合）





コンテナの使用

建家にはコンテナを使用。安価で済み、かつ実験後の移転にも対応できる。
組み合わせも自由に決めることができ、豊富なパターンが考えられる。

佐賀市「わいわい !! コンテナ２」
http://www.waiwai-saga.jp/about/

デッキステージ

ウッドデッキは広めに確保。
イベントに応じて、簡単なステージに変化。ライブをしたり、大道芸を楽しんだり、青空教室をしたり…

看板の設置

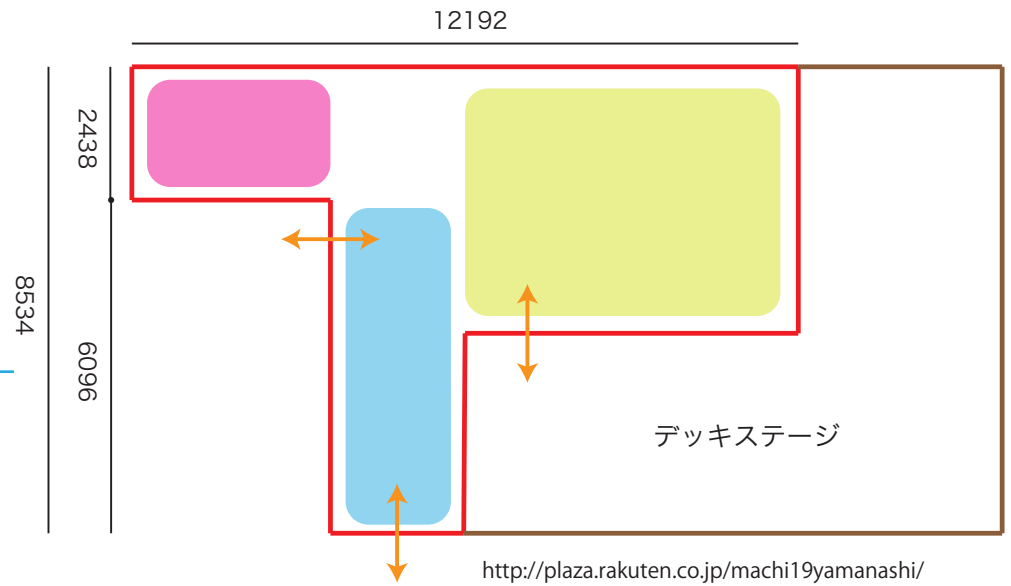
富士みちに面したところに、案内の看板を設ける。裏手の駐車場へのサインともなる。

芝生ひろば

芝生を敷き詰めることにより、子どもが安心して遊べる。
また、草山の面影が薄い富士みちに彩りを与える。
ワークショップをしたり、フリーマーケットをしたり、秋になったら焼き芋大会をしたり…

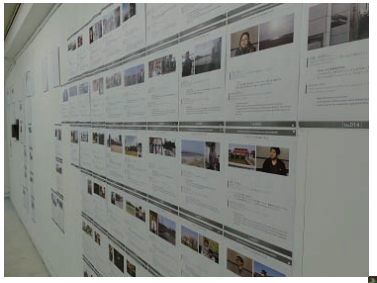
ギャラリー

誰でも使えるギャラリー。もちろん百鬼丸さんの切り絵展でもよいが、「みんなの家からの富士山写真展」など、アマチュアも大歓迎。



観光情報収集スペース・お土産販売

メインの出入り口を入るとここ。様々なパンフレットが手に入るのはもちろん､「みんなのうどん屋おすすめマップ」など、ワークショップで作った住民発信の観光情報が得られる。お土産は、それぞれの商店が特徴を活かした商品を持ち寄る。「草木染め手ぬぐい」「水ゼリー」



シェフよしだ・カフェよしだ

http://plaza.rakuten.co.jp/machi19yamanashi/diary/201112070000/

シェフよしだとカフェよしだは土日営業・時間制。
（例：10:00~11:30,14:00~1800 カフェよしだ
　　11:30~14:00 シェフよしだ）

【シェフよしだ】

・市内の農家でとれた幻の米「ミルキークイーン」と、都内高級店などにも出荷される「甲斐サーモン」、市内の農家で作られた有機野菜などを使った料理が食べられる。

【カフェよしだ】

・地域のお店から人気スイーツを個数限定で仕入れ、販売する。

・限定販売のため、商品が売り切れたら、観光客は歩いてスイーツを買いにいく必要があり、集客力増加とまち歩きへのきっかけになる。

6. 予想される効果

◆観光客と住民の新たなコミュニケーションの発生

観光客と地域住民が触れ合うことができるプラットフォームとシステムを整備することで、両者間に今までにないコミュニケーションが成立し、観光情報の共有などのメリットが生じる。

◆御師まち観光の新たなコンテンツの提供

観光コンテンツの絶対数が少ない富士みちにおいて、新たなコンテンツを提供できる。特に富士みち沿いに少ない、「食べながら休める空間」を設けることで、よりゆったりとした観光空間を創造することができる。

◆駐車場から歩いて観光というパターン

これまで想定になかった、「車から降りての観光」というパターンを実践し、新たな富士みち観光の可能性を検証できる。

◆地域住民によるアクティビティの選択肢の増加

気軽に使えるひろばは、より地域住民の意欲をかきたて、これまで頭に浮かんでもやる場所と機会がなかったアクティビティを実際に行うことができる。

7. タイムライン

2013 年 4 月　組織体制構築・設計依頼

2013 年 5 月　コンテナ改修

http://www.ats-japan.com/gallery/

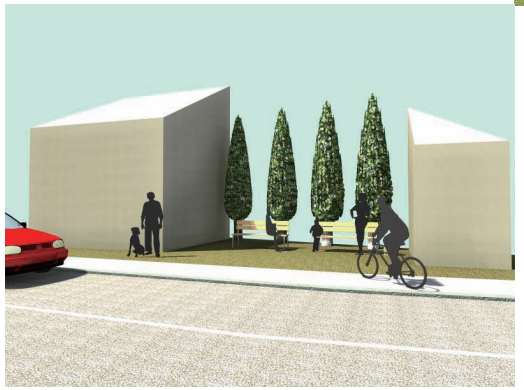
2013 年 6 月　オープン・芝生張り WS

http://miyanooka.seesaa.net/article/148078105.html

2014 年 6 月　実験終了・住民の意見により今後の方針を決定
（存続 or 移転 or 廃止）

Chie-no-Wa!
ちえのわ！
Platform of Communication between Tourists and Residents

提案 3. お休み処



1. 提案背景

全体構想コンセプト

人の流れを生み出す

×

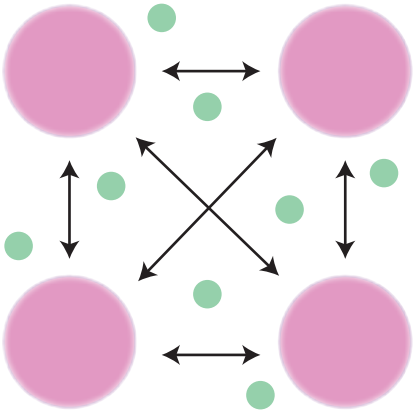
現状の富士みち

休憩場所の不足

↓

休憩空間の必要性

現状の富士みちは、その休憩空間の少なさが問題となっている。しかし、全体の提案のコンセプトとして「人の流れを生み出す」と掲げている私たちは、富士みちが人の流れの軸になると考えている。そうしたときに、観光の軸となる富士みちには、やはり快適な休憩空間が不可欠であることを再認識した。



私たちの考えでは、観光というフィールドにおいて、休憩空間はあくまでも補完的な扱いである。観光拠点間の移動（動線）を補うものとして、様々な休憩空間を提供するものとする。

2. 考え方

休憩空間の定義

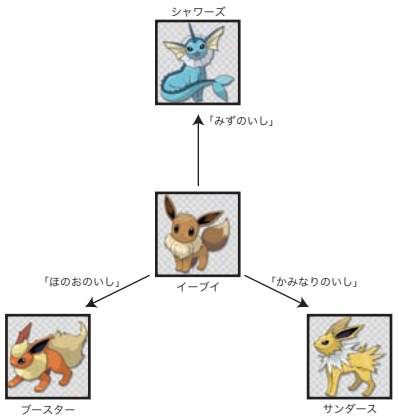
休憩空間は補完的な扱いである

↓

提案の考え方

お休み処のスタイルは、設置される場所に影響される

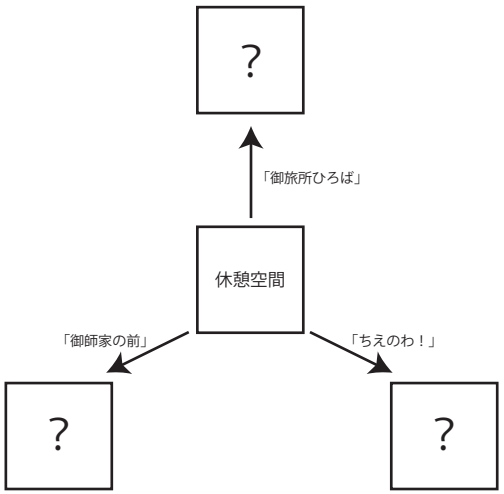
先述した「休憩空間は補完的な扱いである」との定義から、「お休み処のスタイルは、設置される場所に影響される」という考え方において、以下の提案を行う。



©2013 Pokémon ©1995-2013 Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK inc

参考：イーブイの石による進化

大人気アニメ「ポケットモンスター」のイーブイというキャラクターは、与えられた石によって進化系が変わるという特徴を持っている。



では、「空間の特徴」という石を与えられた休憩空間は、どのような形に変化するのだろうか？

3. 休憩空間の要素とロゴ

私たちが休憩空間に求める要素は、以下の２つである。

①気軽に休めること

②それが休憩空間だと認識できること

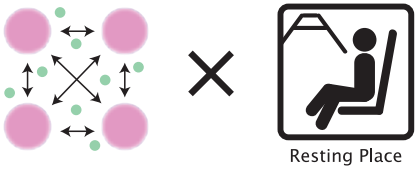
上記を満たすために、私たちはお休み処のロゴマークを制作した。

Resting Place

配慮したことは以下の３点である。

1. 休憩場所であることがわかること
2. 富士山を入れること
3. 外国人に配慮すること

4. ちりばめられた休憩空間とロゴの活用



ロゴを活用して、私たちは富士みち沿いの休憩空間を増やしたいと考えている。

金鳥居公園のベンチ・御山倶楽部が設置しているベンチ・各商店の前に出ているベンチ・浅間神社のベンチ…

富士みち沿いのベンチの共通ロゴとして定着させ、まち全体に「ゆっくりやすんでいきなさいよ」というメッセージを持たせる。

5. 導線の形成

全体構想コンセプト

人の流れを生み出す

×

一ノ瀬研究会の提案

五合目までの登山

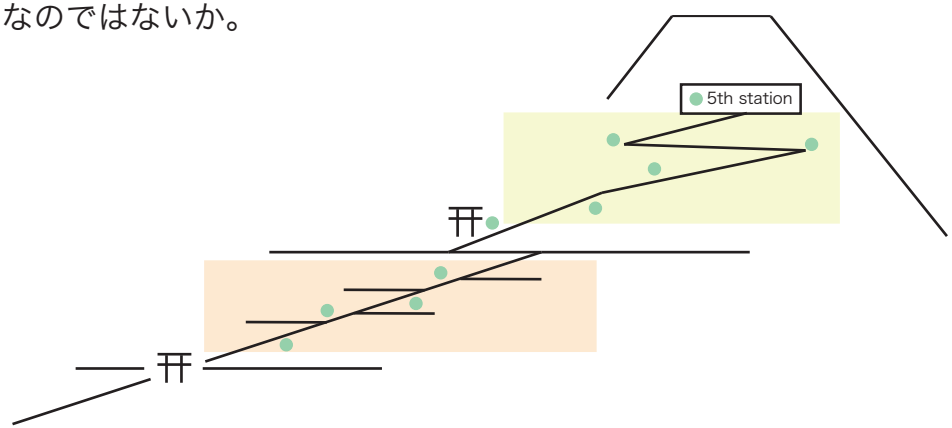
＝

御師まち空間と登山を結ぶ

導線の形成

中島研究会は、今年度の数々の提案によって「人の流れを生み出す」ことを目標にしてきた。また、一ノ瀬研究会では「麓から五合目までのトレッキング」をテーマに、調査研究を進めている。

私たちは、このことに着目した。ちりばめられた休憩空間によって、富士みち～浅間神社～富士山五合目までの導線を形成することが可能なのではないか。



6. まとめ

休憩空間	設置される場所		休憩空間のスタイル
＋	a. 御旅所	＝	町家と共存するお休み処
	b. ちえのわ！	＝	フレキシブルなお休み処
	c. 御師家	＝	サインとしてのお休み処
	d. 茶屋	＝	地域がつくる憩いのお休み処
既存の休憩空間 × ロゴマーク	■金鳥居公園	＝	ピクニック気分のお休み処
	■商店前	＝	ちょっと一息なお休み処
	■浅間神社	＝	ゲートとしてのお休み処
	■○○○○	＝	△△△△なお休み処
	■○○○○	＝	△△△△なお休み処

御師まち～富士山五合目までを、

誰でも・どこでも休みやすい空間へ

a. 御旅所ひろば ver.

①設置場所の分析

・御旅所ひろばとその周辺（御幸道等）の修景、整備に伴い、新たにお休み処を設置する。現状では富士道からコミュニティーセンターまでに休憩空間が存在せず、今回全体の整備と同時に提案する。

求められること

- 御旅所ひろばと一体感のある質感、デザイン
- 気軽に寄れること
- 観光客に対してもオープンであること

②具体案

コンセプト

町家と共存するお休み処

・現在敷地内にある消防詰め所が町屋風に改装されている。このデザインに近づけつつも、より親しみのある木材で構成する。

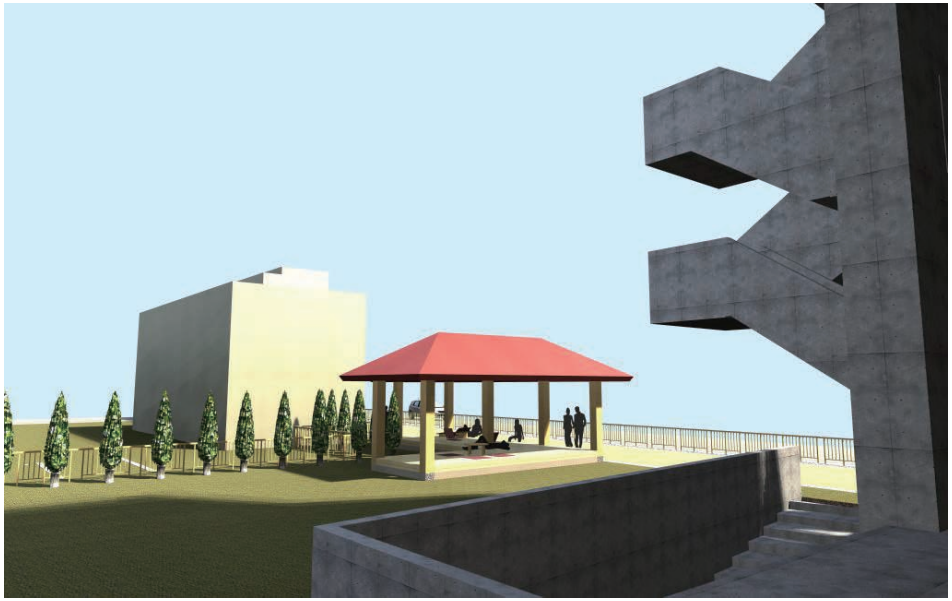
③効果

〇設置場所との関係

・改装した詰め所との一体感、御師まちにそぐうデザイン

〇富士みちの人の流れとの関係

・新たな建築物として存在感を出し、富士道から人を呼び込む。



b. ちえのわ！ ver.

①設置場所の分析

・富士みちに面しているため、人の往来が多い。芝生ひろばでは様々なアクティビティが発生することが予想されるため、できるだけフレキシブルなデザインが望ましい。

求められること

・移動や組み合わせのしやすいデザイン
・ちえのわの雰囲気に適したモダンなデザイン

②具体案

コンセプト

フレキシブルなお休み処

・動かすことのできるテーブルとベンチを配置。ちえのわのイメージに合わせて、モダンなインテリアとする。

③効果

○設置場所との関係
・ちえのわ利用者の憩いの場となる。
○富士みちの人の流れとの関係
・富士みち沿いの休憩空間の一つになる。また、ちえのわへの誘導となる。

http://www.pref.saga.lg.jp/web/kensei/_1368/kou-kouhou/kouhoumail/fromsaga/fromsaga-207.html

c. 御師家 ver.

①設置場所の分析

・御師家へと続くタツミチには、休憩できるスペースがなく、ゆっくりと御師家の雰囲気を観察したり、ゆっくりと看板を読んだりする際の障害となっている。

求められること

- 御師家の歴史とマッチするデザイン
- 短期滞在に向いた手軽な休憩空間の必要性
- 人々を御師家へと導く、サインとしての役割の必要性

②具体案

コンセプト

サインとしてのお休み処

・富士みちを歩いて通りかかった人々に興味を持たせ、引き寄せる力を持ったサインとしての役割を果たす休憩空間をデザインする。

③効果

○設置場所との関係

・タツミチ近くに設置することにより手頃な短期滞在空間を創出する。

○富士みちの人の流れとの関係

・富士みちから人々を御師家へと引きこむ効果を発揮する。

http://shinagawa-syuku.net/result/break/

d. 馬返し茶屋 ver.

①設置場所の分析

・馬返しは１合目手前に位置しており、５合目までの登山客の利用が多くなることが予想される。また、「草山」「木山」の境目付近に位置し、高木など自然環境の豊かな場所である。

求められること

・登山客に配慮し、ゆったりとした空間を持つデザイン
・地域の豊かな自然を体現したデザイン

②具体案

コンセプト

地域がつくる憩いのお休み処

・恩賜林組合から提供していただいた木材をもとに、高校生を中心とした地域住民が設える、登山客を迎えるための空間とする。

③方策

○ワークショップの実施

建築デザイン系列を抱える富士北稜高校の高校生を中心に、地域住民が参加するワークショップを行い、デザイン案の作成から実際の組み立て・設置作業までを行う。

④検討課題

■デザイン

特別な技術訓練を受けていない住民の制作には、安全が第一である。なるべくローテクノロジーで、なおかつ優れたデザインを検討しなければならない。

■提供するサービス

2012 年度の実証実験では、提供するサービスとその提供方法に問題があった。登山客のニーズをふまえたサービスを検討しなければならない。

■広報

お休み処を知ってもらい、より多くの人に利用してもらえるような広報の方法について、検討しなければならない。

⑤スケジュール

（月）	
2	提案の提示と活動コアメンバーの決定
3～5	具体的部分（デザイン・サービス内容）の企画、必要な手続き、材料の明確化
6～7	ワークショップに向けた準備
8	ワークショップ実施

2012 年 12 月 3 日、北稜高校の生徒 8 名が SFC に来校し、御師を拠点とした新たな生活文化の提案を行った。

富士に生きる

ー御師を拠点とした生活文化の提案ー

世界文化遺産に登録されようとしている富士山、
私たちは本当に誇れるものとして、
向き合ってきたのだろうか。

聖地としての富士山
観光資源としての富士山
私たちの生活はどうあるべきなのか。

御師の街、山梨県富士吉田市より、
富士北稜高等学校建築デザイン系列の生徒が提案します。

目的：

富士山の聖性の回復

問題意識：

・観光地として消費される富士山
・昭和 39 年に消えたまち
（スバルライン開通）

提案：

生まれ変わるための空間としての御師

＜信仰の夏～ NEO 富士講＞
＜芸術の冬～ Arts & Crafts＞
＜風土を耕す春と秋～学育コモンズ～＞

聖なる富士山を取り戻すための３つの鍵

金銭⇒時間
物⇒物語
生活＝芸術

【価値観の転換】